

ドクター
コラム

1 [産科]

「母乳育児」

近年、母乳育児がお母さんと赤ちゃん双方にとっても良いという、さまざまな医学的証拠がたくさん出てきて、母乳育児を広めようという運動が世界的に広がってきています。WHO(世界保健機関)とユニセフは2002年に「生後6ヶ月間は完全に母乳だけで育てること、そして適切な補完食をとりながら、母乳育児を2年かそれ以上続けること」を世界的な目標として掲げました。日本でも、平成19年に厚生労働省から出された「授

乳・離乳の支援ガイド」で母乳育児の大切さが強調されています。母乳は何が良いのでしょうか。まず、生まれたばかりの赤ちゃんにとって母乳は栄養的にパーフェクトで、生まれてから半年近く母乳だけで育つことができます。母乳の中には赤ちゃんをバイ菌から守るものがいっぱい入っているのです。母乳を飲んでいられる赤ちゃんは感染症にかかりにくく、かかっても治りが早いです。将来の糖尿病や肥満などにもなりにくくなると言われています。脳や神

このように良いことづくめの母乳育児ですが、母乳育児を続けていく中で「母乳が十分に出ない」「足りていないのではないか」「おっぱいを吸われると痛い」など、さまざまな悩みや葛藤を持つお母さんにもいます。また、お母さんの中にはある種の病気などのために、しっかりと母乳育児ができない方もいます。授乳に限らず、育児にはさまざまな不安や心配がつきものです。困った時はひとりで抱え込まずにご家族、医療者など周囲の人に助けを求めて下さい。

経の発達に必要な成分も含まれているので、神経の発達を促進します。お母さんも母乳をあげることによって産後の回復が促進され、無理なくやせることができます。それに、母乳はお金がかかりません。なんといっても、赤ちゃんとお母さんの絆を深めるのに、とても大切な役割を果たします。



函館中央病院

産婦人科
総合周産期センター長(産科部門)

そらもん
片岡 宙門

医師

[略歴]

平成5年北海道大学医学部卒業。
札幌病院NICU、盛岡赤十字病院NICU、北海道大学病院周産母子センター勤務を経て、平成17年より函館中央病院産婦人科勤務。
平成20年より同病院総合周産期センター長(産科部門)。日本産科婦人科学会専門医および、日本周産期・新生児医学会暫定指導医。

函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代) <http://www.chubyou.com/>

診療科目/内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、
心血管外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など全22科目
受付時間/8:30~11:30・13:30~16:00※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。
休日/日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)

